

No.7 キーワード： 高窒素成分L字型肥料、育苗箱全量施肥、防除回数削減

(農)リッチライス
秋田県横手市

基本情報

- 気候：内陸性気候、年平均10.7℃、降水量1,581mm
- 土質：主にグライ土
- 従事人数：3人
- 臨時雇用：春作業4人、秋作業1人

品目	作付面積	平均区画
主食用米(移植)	17ha	30a
主食用米(直播)	10ha	30a
備蓄用米	15ha	30a



水稻直播栽培の播種作業

経営方針(重視・優先していること、こだわり等)

- 労働力の確保や経営面積拡大、地域農地の維持活用等のため、水稻に絞り込んだ経営を実施
- 複数品種の作付けと直播栽培の導入により、適期作業を実施し、品質や収量を確保

稲作の施肥・防除におけるコスト低減の取組

- 肥料
 - ①窒素成分含有率の高いL字型ペースト肥料(N16-P5-K5)で、面積当たりの肥料施用量を削減(移植、直播栽培)
 - ②肥料利用率の高い育苗箱全量施肥専用肥料「苗箱まかせ」を利用し、施肥量を低減するとともに、本田施肥作業や追肥作業を省力化(移植栽培)
- 農薬
 - ①慣行よりも農薬の使用を抑えた特別栽培米に取り組み、防除コストを削減(使用回数10回→6回)
- 育苗
 - ①直播栽培により、育苗に関する経費削減、春作業及び秋作業を分散

導入効果

- 施肥
 - 肥料費 ▲約3割
 - 労働時間▲約1%
(基肥全層施肥+追肥体系との比較)
- 農薬
 - 農薬費 ▲約5%
 - 労働時間▲約1割
(慣行防除体系との比較)
- 育苗
 - 種苗費 ▲約5割
 - 労働時間▲約6%
(移植栽培での育苗作業との比較)

支援体制

- 水稻直播栽培の現地実証ほ等の取組等をきっかけに直播栽培を徐々に拡大
- JA秋田ふるさと稲作部会、直播栽培研究会、特栽ササニシキ研究会等に所属し、技術を研鑽

課題・今後の目標

- 現在使用している肥料や農薬を最大限に活かせる栽培体系(施用量、施用時期等)の構築